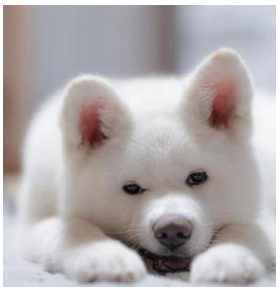
届け 世界の果てまでも

令和４年５月３１日　　Ｎｏ．１４　　文責　校長　飯久保一男

子どもって…

重い内容や辛口の内容の通信が続きましたので，５月最終号は気楽に読める通信をお届けします。

食事中のこと。
子どもが「もういらない…」と言うので
「お腹いっぱい？」と聞いたら
「ママがつくった方がいい…」なんてカワイイことを言うので
「それ聞いたら，ママは喜ぶね」と頭を撫でたら
「あのなんかまずい感じがいいんだよね…」

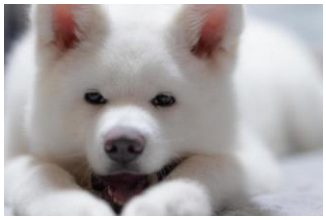


妹が食卓で
「お父さん，だいふきっ」って言ったら
「突然どうした？　お父さんも〇〇（名前）のこと大好きだよ♥」って父が返した。
妹は真顔で
「ちがう！　台ふきとって！　はやく！」
そんな父を見て切なくなった。

息子に「パパ，明日の朝早いから起こしてね」と頼むと，必ず起こしてくれるんだけど，
迫真の演技で
「パパ大変！　外が大雪！」
「パパ！　ママがどこ探してもいない！」
「（小声で）起きてお願い。おまわりさんが玄関に立ってる…」
と嘘か本当か分からないシチュエーションで揺すり起こすからスゴい。

ご飯を残す子どもに
「もう，そんなに好き嫌いするなら，ママはご飯作りたくないよ」
と言ったら
「じゃあ，パパが作ればいいじゃん」

娘に「４５年に一度の大雪らしいから遊んでおけば」と言ったら
「私は４５年経ったらまた見られるけど，お父さんは生きてるかわからないんだから
　お父さんこそ遊んでおいたら」と言われ
ぐうの音も出ず，感慨に浸りながら雪だるまを作った。



家族分のソフトクリームを運んでいたら１つ落としてしまった。
娘「あっ，パパのが落ちたよ！」
俺だけ食べられなかった…。

男の子が段ボールで剣を作って
「先生！　見て！」と見せてくれたので
「おぉ，すごい！　誰をやっつけるの？」と聞いたら
「誰をやっつけるんじゃない！　誰を守るかだ！」と答えた。
何だか恥ずかしくなった。その気持ち大切にしてほしいな。

「先生，好きって１０回言って。」と言うので，「好き，好き…，好き！」と１０回言ったら
「ありがとう!!」と嬉しそうだった。これは高等テクニックだ。

３月，通勤途中に立ち寄る自動販売機のところで
いつもあいさつを交わす小学生が突然，
「ぼく中学生になるんだよ。」と言ってきた。
「へえー，そうなんだ。」と返したら
「会えなくなるね。」って言われた。
やめろよぉ，オジサン泣きそうになるじゃんか。
しかも，缶コーヒー取り忘れちゃったし…。

一杯飲んで眠くなり，居間の座椅子で寝てしまった私。
妻は窓を開けたまま寝室へ。夜中に寒くて目が覚めた。
次男は「父さんそこで寝ているとカゼひくよ」と一言。
長男は窓を閉めて，そっと毛布を掛けていってくれた。